

オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く (32) (HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(32)—

1. 始めに

前報(31)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 と再び TohrensTD124 を使用します。

前報(9)から、アース関係が仮想アース Crystal E の導入(7)で報告のとおり、仮想アース Crystal E の追加とアース専用ケーブル Clone 2 が加わっていますが、LINN LP-124 と TohrensTD124 のシステムに関係するのは、ZANDEN Model120 のアースケーブルが Western の撚り線から Clone 2 に代わっていることです。

加えて、仮想アース Crystal E の導入(15)で報告しましたように、スピーカーケーブルの結線に自作の仮想アースを接続しています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回もピアノソナタの曲です。

PHILIPS 18PC-105

モーツアルト ピアノソナタ 6 番ニ長調

ピアノソナタ 13 番変ロ長調

ピアノソナタ 1 番ハ長調

イングリット・ヘブラー (ピアノ)

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

PHILIPS 盤ということで、RIAA、正相、第 4 時定数 High で聴いて行きます。

LINN LP-12 の再生では、前 3 報と同様、ヘブラーの間の取り方や抑揚あるいは緩急のある、まろやかで優しいピアノリズムが感じられます。

Garrad401 の再生では、LINN LP-12 の再生とおおむね同様ですが、厚みがあり、打鍵が力強く聴けます。

3. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、Crystal E の導入および ThorenTD124 のターンテーブルシートの交換などの総合的な効果として、前 3 報

と同様、まろやかで穏やかな演奏が味わえ、LINN LP-124 と TohrensTD124 それぞれの表情の違いも分かります。

以上